

# ふふふ

想い | つくる | 伝える



[Fuud]  
2012  
冬号  
— 季刊 —

## あたたかい 雪国



Take Free  
ご自由にお持ちください

雪が降る中をおばちゃんは 孫が寒くないようにと  
角巻を頭からすっぽりかぶせ かばいながら歩いて来る  
photo/「雪の降る日」旧村松町 1957年(昭和32) 林 寛 写真集「あのころの追憶」より

がんばろう ● ニッポン!

## 風待ち湊の町 [長岡市寺泊]

文 / 榎本国男



新潟市から越後七浦シーサイドラインを走り、野積海岸から大河津分水の野積橋を渡れば寺泊にいたる。賑やかな魚市場通りを過ぎ昔ながらの通りに入って見た。寺泊は北国街道の宿場町として栄えた港町。北前船が寄港する港であり、また佐渡金銀山の陸上港でもあった。

「寺泊」は鎌倉期から見られる地名。順徳上皇の佐渡遷御を記録する『吾妻鏡』(1180年から1266年までの鎌倉幕府事績を綴った編年体史書)に「越後国寺泊浦」とある。上皇が佐渡に配流される前、海が穏やかになるまでの数ヶ月をこの地の豪族・五十嵐氏の邸宅で過ごす。その行在所は山の中腹にあり、猛り狂う日本海から吹きつける烈風が直にぶつかる地形。科人とはいえ在位10年の元天皇。ままならぬ山家の仮暮らしは、いかばかりだったか。同じ頃、日蓮上人も佐渡流刑前に風待ちのため、寺泊に足止めされた。通りから海側に下る急カーブの角地に立つ祖師堂境内に、日蓮上人『碩水の霊井』がある。弟子の富木常忍に宛てた『寺泊御書』を書かれたときに用いられた碩の水は、この霊水を使ったといわれ、今も湧き続けている。日蓮上人説法銅像のわきには霊水を囲むお堂が見られる。像の台座に刻まれた碑文は

我日本の柱とならむ 我日本の眼目とならむ 我日本の大船にならむ  
上人の三大誓願を象徴し、  
法華経布教による衆生救済への  
ひたむきな信念を偲ばせる。



家並が続く通りは小さな食堂・寿司店などが並び、道路は各店舗のバックヤードの機能を兼ね各店の納品車が多い。冬景色で少し淋し気な通りを、昔ながらの郵便ポストが点々とアクセントをつけている。注意してみると、すべてがそれである。鉄製のポストでは、塩分を含む浜風で錆びてしまうという。大町通りの山側に聚感園があり、順徳上皇の行宮御遺蹟碑、弁慶手掘り井戸、越之浦神社、良寛ゆかりの密蔵院などをめぐる11か所の史跡散策コースが整備され、賑やかな魚市場通りで象徴される寺泊以前の、町の来し方を伝える。町を見下ろす山腹に建つ神社仏閣は固く冬囲いをし、その時が来るのを待っていた。

海側の通りは寺泊鮮魚センター、別名を「魚のアメ横」。この日、平日にもかかわらず、県外の大形バスやマイカーで賑わい、12店舗から元気なかけ声が響いてくる。店内はどこも満員のお客。並んだ鮮魚はどれもピチピチに輝きカニなどは動いている。鮮魚センターに観光バスが立ち寄るようになって20年。バブル期には年間100万人の観光客が押し寄せ今に至る。寺泊には幕末の寺泊海戦で自爆した順動丸のシャフトがある。勝海舟や坂本龍馬も乗った幕府海軍の軍用艦で、イギリス製の蒸気船である。

### 編集後記

昨冬の大雪からしばらく経った頃、長岡市の新産センター周辺で、道路脇に積み上げられた雪がきれいな直角の壁になっている様子を見、その芸術的な仕上げぶりに雪深い地域で除雪作業に従事する人たちの矜持を見せつけられた思いがしました。雪が降れば道路除雪をするというあたりまえの事でも、実は誰かの心が反映されている事に、はじめて気づきました。それが、今号の「雪」特集のきっかけです。普段目に触れる機会がない場所で、黙々と与えられたミッションを果たしている人が大勢います。線の下の方で車社会を支えている人、地道な研究で雪氷防災の未来を開こうとする人。そして江戸時代の豪雪地の様子と当時の科学的考察を現代に手渡してくれた北越雪譜の鈴木牧之も。今号に登場していただいた人たちは「雪国の逆境」をバネにした人たちがばかりです。山本五十六も「嗚呼 冬はこれ永久の良師たり 雪はこれ不変の友なり」(反町栄一著「人間・山本五十六」)とっています。おなじ冬を迎えている私たち。雪国DNAをもっと發揮し「あたたかい雪国」になればと思います。(波川)

### ふうど 2012冬号 vol.15

企画編集 株式会社タカヨシ広報室  
発行人 高橋春義  
編集 波川綾子  
取材 榎本国男  
写真 渡部佳則  
デザイン 斎藤道司  
題字 小林 翠

### 発行所



まごころ印刷の  
株式会社 株式会社 株式会社  
株式会社 株式会社 株式会社  
株式会社 株式会社 株式会社

■本社・工場 / 〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800  
■東京支社 / 〒110-0005 東京都台東区上野1丁目13-3 MYビル2F TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884  
■仙台営業所 / 〒981-0952 宮城県仙台市青葉区中山5丁目7-32 TEL (022) 303-1225 FAX (022) 303-6830  
■オフィシャルサイト / <http://www.takayoshi.co.jp> ■商品サイト / <http://www.tk-print.jp>

### 「ふうど」はここに置いてあります

【新潟市】NPO法人 Made in 越後(中央区)、上古町商店街(中央区)、砂丘館(中央区)、佐渡汽船ターミナル(中央区)、朱鷺メッセ(中央区)、新潟NPO協会(中央区)、新潟絵屋(中央区)、新潟県政記念館(中央区)、新潟県庁広報展示室(中央区)、新潟県立図書館(中央区)、新潟市市民活動支援センター(中央区)、新潟市生涯学習センター図書館(中央区)、新潟市商工会議所(中央区)、新潟市中央公民館(中央区)、新潟市中央図書館(中央区)、新潟町の駅(中央区)、新潟ユニオンプラザ(中央区)、新潟市歴史博物館(中央区)、古町サテライト(中央区)、NSG学びステーション(中央区)、りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館(中央区)、新潟大学図書館(西区)、新潟ふるさと村(西区)、新潟せんべい王国(北区)、亀田図書館(江南区)

【長岡市】長岡市立中央図書館  
【東京都】表参道・新潟館 ネスバス(渋谷区)、日本橋・いがた館NICOプラザ(中央区)

エコプレス  
バインダー  
針金・糊・加熱が不要な  
製本方法を採用し、  
リサイクルや怪我の危険へ  
配慮しています。

この印刷物は環境にやさしい  
米ぬか油のUVライソインキで  
印刷しています。



③



①



# なんとか、 できなにか

寒いすね。でも、逆境は、創造の源。  
江戸時代、雪国の生活を都に伝えようとした男がいた。  
塩沢の地主で縮商人だった鈴木牧之である。  
構想から出版まで四十回の冬を越し、  
最晩年になって、ようやく「北越雪譜」を世に送り出す。  
それから約二百年。当時と変わらない事、  
変わった事を探してみた。



②

想い 宿命を科学する

## 鈴木牧之が過ごした冬

「北越雪譜」に記されている天保期の魚沼の冬を訪ねてみよう。蝦夷地の海に外国船が出没し始めた時期、魚沼連山と小さな山々が波濤のように迫る村々に、いつものように雪に閉ざされる季節が来る。

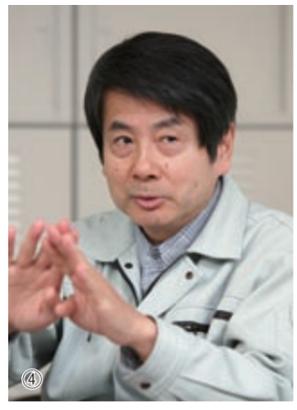
旧暦の九月末から十月頃に雪が降り始め、雪のなかで新年を迎える。三、四月で雪が解けたし、五月になって、ようやく雪が消え黒々と

した夏道になる。この頃に春の花々がいつせいに咲く。一年のうちで雪を見ないのは、僅かに四ヶ月。半年を雪中で暮らす。雪は、一昼夜で二、三メートル積もる。天保五年、妻有では累計で五十五メートルにもなった。人々は雪が降る時期を考え、雪の被害に遭わないよう屋根に工夫をし、梁や柱を補強する。食糧もひと冬過ごせるだけの保存食を準備する。ふかふか、ふかふか雪が降り積もる。掘っても掘っても家は雪に埋まる。雪に囲まれて昼でも暗い家の中で、機織りや藁仕事をしながら春を待つ。時折、吹雪で遭難し

た話、雪崩に遭った話、雪解け水の洪水が起きた話など耳にし、天地の仕打ちに畏れおののく。予測できない被害から身を守るために、人々は神仏に祈り、身を謹んだ。

## 自然理解の深化と対策

雪による災害を甘受するしかなかった北越雪譜の時代から約二百年。現代の科学技術は、大きな災害が起きるたびに雪の対策施設を拡充してきた。そして、いまは、どんな未来が始まっているのだろうか。長岡市にある防災科学技術研究所雪氷防災研究センターを訪ねる。このセンターは国内外の学者や研究者と連携し、災害につながる降雪粒子や積雪のマイクロな構造の研究、雪崩、吹雪、着雪氷などのリアルタイム予測に関する研究などを行っている。昨年十一月下旬、悠久山山腹の奥まった台地にあるセンターは、前



④



⑤

日の雪が嘘のように晩秋の明るい陽射しを受け、白い外壁を輝かせていた。研究者の詰め所は難しそうな資料に溢れ、最前線の活気に満ちていた。北越雪譜について聞いてみた。「自然に対する観察力は鋭かったと思います。降雪のメカニズム、雪の結晶、雪崩の種類と前兆現象なども熟知していたようです」と快活に答える上石勲さんは、おもに雪崩予測をテーマにする統括主任研究員。上越市出身で、五六豪雪の年がたまたま大学の専攻を決める年あたり、「この状況をなんとかできないか」という思いから、雪害防災の研究の道を選ぶ。その後、昭和五十九年の豪雪の年に就職先を選び、平成十八年豪雪の年に研究所に来るなど、雪害が上石さんの肩を後押ししてきた。

雪崩が起きると現場に急行し、二次災害が起きかねない状況で調査するという。かんじきも履きこなせる行動派の博士なのである。

③ 小山を背に広がる敷地に、雪空と交信するように最新鋭の観測装置がそそり立つ。雪が積もると、大きな穴がいくつも掘られ巨大な野外観測場になる。  
④ 降雪メカニズムや雪粒子を研究する石坂雅昭さん。知るほどに自然の奥深さに魅せられ、また難題も抱えるという。  
⑤ 雪崩発生の原因解明と予測法を研究する上石勲さん。冬は学界内の論文作成と並行し理論の検証に追われ忙しい。



④ 出張所の所長で、作業指示を出す早川博さん。そして除雪を請負う

翌日、新潟市の幹線国道を維持管理する最前線・新潟維持出張所を訪ねる。この出張所は新潟バイパスを含む、国道の合計五十九・八キロメートルの交通確保を担う。やはり除雪車の出番を待っている。

### 除雪の最前線

冬は越えられません。健康に留意し、厳しい冬を乗り越え、いい春を迎えよう」と力強く挨拶すると、空気は一瞬にして張りつめた。式の後、五台の除雪車がデモンストレーションした。その姿は、人懐っこいロボットに見えた。



③

出張所の所長で、作業指示を出す早川博さん。そして除雪を請負う

本格的な除雪シーズンを前にして、早川さんたちの心中は、「東京では雪は災害だから、無理に除雪しなくてもいいのでは、なんて言いますが、これだけ流通網が発達した現代、雪国の冬の生活を守るために国道は止められない。昨冬、鳥取や福島で国道が雪で通行止めになり、地域経済や市民生活への打撃の大きさにようやく気づいたんです。雪国は昔から無雪国道を目指してきました。今冬も気概をもってやります」と力を込める早川さん。どんなに科学技術が進んでも、雪国と暖国に心の橋を架けるのは難しそうだ。

### 雪国の誇りにかけて

NIPPPOの幾島洋寿さんと鈴木義順さんに、おもに新潟バイパスの除雪態勢について話を聞いた。

「初動の判断ミスが大渋滞を招きかねない」と大動脈・新潟バイパスの特徴と出動指示の難しさを語る早川所長。

「交通を流しながらの除雪作業は、運転者の協力なしではできない」と幾島洋寿さん。

### 眠れない夜

二十四時間態勢の除雪は、さぞ大変なのだろう。「泊まり込みの時は、眠たいところか、眠れなくなる。積雪がいつ五センチになるのかモニターを見続ける。天気予報だけでは確実ではないので雲の流れ、風向きなど見て予測する。オペレーターを睡眠不足にさせたくないの、ぎりぎりのところで起こしに行く」と幾島さん。昼夜を問わず、概ね五センチになると除雪作業を始め、つねに無雪をめざすのが雪国の国道。そのために作業員が仮眠できる施設もそなえ態勢を整えている。鈴木さんは、いままでで八日間連続泊まり込みが最長だったそうだ。



⑧



⑦



⑥

③ 出動態勢を整え、指示が出る瞬間を待つ除雪ステーション(新潟国道事務所提供)  
 ④ 「初動の判断ミスが大渋滞を招きかねない」と大動脈・新潟バイパスの特徴と出動指示の難しさを語る早川所長。  
 ⑤ 「交通を流しながらの除雪作業は、運転者の協力なしではできない」と幾島洋寿さん。  
 ⑥ 3台の除雪車が前後に並び、中央車線から順々に除雪する(新潟国道事務所提供)  
 ⑦ 11月1日の除雪出動式。除雪作業を請負う業者に、除雪車のゴールドキーが手渡された。  
 ⑧ ビーピービーッ寝静まった街に頼もしい音が響く。国道の除雪作業に昼も夜もない(新潟国道事務所提供)

雪水防災研究センターでは、近年、長年の研究から気象条件で変質する積雪や内部の水の移動をモデル化し、雪崩発生予測情報を発信できるようになった。気象庁など気象観測所から送られてくるデータから、雪崩危険箇所

粒子や過冷却水に造詣が深く、降雪の構造、世界や日本の降雪と雪質の違い、雪雲は筋状のまま流れるとおなじ地域でも局所的に降雪量が変わること、そして温暖化と近年の豪雪の関係など、易しい言葉を選びながら説明してくれた。気がつくとき大きな机の上に、打ち合わせ用の何冊かの本とペーパーが散乱していた。

### あたたかい雪国

新潟は「あたたかい雪国」なのだ、と石坂さんはいう。地上の気温がせいぜい氷点下二〜三度の新潟は、上空にできた雪の結晶が地上に近づくにつれ、結晶の表面が緩み、結晶同士がくっつき易くなり大きな雪になる。いわゆる牡丹雪、綿雪。顕微鏡で見た雪の結晶は、確かにいくつかの結晶が重なりあっていた。雪の典型的な結晶、美しい「六花」の姿を、新潟で観察できるのは稀だと博士は残念がる。この大きな雪は水気が多く融けやすい。県内で消雪パイプが有効なのは、この雪の性質による。



①

## いい春を迎えよう

雪に強い故郷

### 十一月から冬が始まる

その日、晩秋にしては、珍しく汗ばむほどの陽気だった。本格的な除雪シーズン前に、十一月一日、新潟国道事務所の除雪出動式が行われた。会場

近な雪が科学になる。ことを知り、物理学の世界へ。自然の妙に惹かれ、雪の結晶は美しいと話す。この後、実験や観測用の低温室に案内される。過冷却水が僅かな刺激でみるみる雪になる様子に、びっくり。ほんの五分ほどでも、厚い防寒着を通し寒気が身を刺す。雪国の宿命を科学することは、生半可な覚悟じゃできないことを実感する。



②

の新潟西除雪ステーションには、この日のために念入りに整備された除雪車が整列し、同事務所と管内の除雪を請負う業者四社の約七十人が集まり、華やかな高揚感に包まれていた。式が始まり田中倫英事務所長が「昨年は大雪で厳しい冬になり、一ヶ月以上、お子さんの顔を見なかつた人もいました。でも皆さん無くして、新潟の

① 氷点下20℃に保たれた低温室に設置されている雪崩の実験観測装置  
 ② 降ってくる雪の粒子を観測する施設にある降雪監視カメラ



インフォメーション

独立行政法人 防災科学技術研究所  
雪氷防災研究センター

長岡市栖吉町前山187-16  
TEL.0258-35-7520  
URL.http://www.bosai.go.jp/seppyo/

国土交通省 北陸地方整備局  
新潟国道事務所

新潟市中央区南笹口2-1-65  
TEL.025-244-2159  
URL.http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/

国土交通省 北陸地方整備局  
新潟国道事務所 新潟維持出張所

新潟市東区紫竹山3-12-2  
TEL.025-244-3483

鈴木牧之記念館

南魚沼市塩沢1112-2  
TEL.025-782-9860

読者の声

南蛮エビの秘密にビックリ!

毎回、身近で分かったつもりでいたのに分からなかったことを新鮮な切り口ときれいな写真でみせてくれる「ふらび」。今回は当り前のように食べていた南蛮エビに、こんな秘密が隠されていたなんてビックリしました。あの小さな体で11年も生き、雌に性転換してしまうなんて。南蛮エビに情熱をかける漁師さん、研究所の方々も本当に魅力的です。  
新潟市 40代女性

助け合う漁師に感心

私は幼少時代から「甘えび」と教えられて育ちました。あの赤色の美しさは何とも言えず、光を浴びるとキラキラ輝くんですね。宝石のように美しく甘くて美味しい。あの青い卵も格別です！本当に新潟が誇れる極上品。ぜひ全国の皆様から、新潟に足を運んで食べていただきたい。本誌で感心した事は、漁師さんのお互いの漁場を妨害しない、自分だけ獲り過ぎないなどの助け合いの漁法です。  
燕市 50代女性

「雪」についての私見や思い出、今号の感想やご意見など、お気軽にお寄せください。

ネットワークが整備されると、新潟米が商品として他国に売れるようになる。商機を得た諸藩は稲作を奨励し、大地主は新田開発を行い、新しくできた村々に大勢の人が入植。同時に地域経済も発展。こうして雪国新潟が、日本最大の県になったのであ

る。この大規模な稲作を支える水の供給源こそ、豪雪地の雪。もし世界有数の豪雪地でなければ、日本一の豊かさを望めなかった。もちろんその恩恵は稲作だけにとどまらない。豊富な雪と水資源は、いままも製造業や観光業を支えている。

と。ようやく筋状の雪雲群を抜け、栄PAにたどり着くと大勢の先発隊がいた。誰もが安堵の表情を浮かべ、いま来た道を覆う低い空を見つめていた。言葉を変わさなくても気持ちに通じあい、ほのぼのとした。共通の恐怖体験が、知らないもの同

士の連帯感を生んでいた。雪国の人は、辛抱強く情が深い。雪が深い地域ほど、その傾向が強い。生存を脅かす自然の営為にたいし、人々は身を寄せ助けあい、時に神仏の加護を願い、春を待つしかなかったのである。シベリアから吹く風が日本海を渡る時、水蒸気を吸い真っ黒な雲に変容し列島に到着する。その雲が山容を駆け上がり、上空で冷やされた水滴が雪の結晶になり再び地上に舞い戻る。地球規模のダイナミックな大気の循環に、組み入れられ背負わされた雪国の宿命。どんなに科学技術が進んでも、この自然の摂理は変わらない。

⑤「リヤカーをひく女」新潟市昭和橋 1957年(昭和32) 林寛 写真集「あのころの追憶」より



⑤

ちなみに信濃川の年間流水量は日本一。とくに雪解けの時期の三〜五月だけで、一年間の半量をしめる。

雪国DNA

とは言い、やはり雪国の冬は寒く堪え難い。中越地区の高速道路で吹雪に遭ったことがある。気象の急変で、警察が通行止めを指示する間もなかった。荒れ狂う白魔に行く手を阻まれ、運を天にまかせノロノロ進む。その時間の長かったこと。ようやく筋状の雪雲群を抜け、栄PAにたどり着くと大勢の先発隊がいた。誰もが安堵の表情を浮かべ、いま来た道を覆う低い空を見つめていた。言葉を変わさなくても気持ちに通じあい、ほのぼのとした。共通の恐怖体験が、知らないもの同士の連帯感を生んでいた。

雪国の人は、辛抱強く情が深い。雪が深い地域ほど、その傾向が強い。生存を脅かす自然の営為にたいし、人々は身を寄せ助けあい、時に神仏の加護を願い、春を待つしかなかったのである。シベリアから吹く風が日本海を渡る時、水蒸気を吸い真っ黒な雲に変容し列島に到着する。その雲が山容を駆け上がり、上空で冷やされた水滴が雪の結晶になり再び地上に舞い戻る。地球規模のダイナミックな大気の循環に、組み入れられ背負わされた雪国の宿命。どんなに科学技術が進んでも、この自然の摂理は変わらない。

今日も、どこかで寒風に身を屈めている人がいるだろう。全身を縮ませ仕事をやる人も多だろう。でも心の隅で、負けん気を燃やしているに違いない。そうして鍛えられた靱(よ)さが、他者を労る優しさを育てる。そう逆境は心を鍛え、未来に立ち向う力になるのである。

# 雪が育て、風が鍛える

「新潟バイパスの除雪で大変なのは、その膨大な交通量との闘い。大震災後、北陸道まわりの交通量が増え、い



①

川さん。除雪は交通を流しながら、三車線に除雪グレーダーと除雪トラックなど並ばせ、前後に間隔をとりながら進む。その後ろに一般車がついていく。オペレーターは相当なプレッシャーのなかでの作業になるが、流れの速度を落とすとしても、幹線の大渋滞は避けなければならないのである。作業でいちばん危険だと心配するものが、凍結防止剤の散布車を運行させる時。夜、気温が下がると橋や坂がある場所に、薬剤を撒く。夜間の低速走行のために、追突されることが多いという。また除雪ではないが、道路パトロール中の落下物処理も、かなり危険。高速道路なみに飛ばす車の波を縫い、三車線の道路を横断するのは命がけなのだ。仕事とはいえ、知るほどに関係者の見えない苦労に頭が下がる。

伝える にいがたの至宝

日本一豊かな雪国

新潟は明治六年、柏崎県と合併し人口が日本最大の県になった。その数およそ百三十七万人。二十年代中頃まで、行政区の変動で何度かトップの座を譲るが、概ね最大県だった。東京府のそれより七割も上まわる年も

あった。俄に信じ難いが、戸籍表が証明する。では、どうしてだろう。新潟の平野は、信濃川をはじめ幾筋もの川が、洪水のたびに押し流してきた土砂で出来ている。この沖積層は滋養分を多く含み、雪解け水と高温多湿の気象を得、稲作に格好な大地だった。冬を雪中に過ごし、春夏秋は農作業に勤しむ。そんな二年が昔から繰り返されてきた。そして江戸時代、日本海側で船による流通



③



②



④

①「どんなに慣れていても、毎年の初動時だけは気を遣う」と除雪車の運転もこなす鈴木義順さん。  
②大型モニターやパソコンで道路状況と気象情報を確認。パトロール車からも現況が随時報告される。  
③幅4.3mの日本最大のグレードを持つ除雪車。2階ほどの高さから前後左右を確認後に作業する。全長は約10m。  
④出動式でデモンストレーションする除雪車。今年は何回活躍するのだろうか。